

グディー・パードゥワーを祝って

2023年3月22日水曜日

アルカ・ジェイン

春の訪れに伴い、地球がその再生を祝うように、新芽と無数の花々が色彩と香りで世界を満たしています。インドでは、マハーラーシュトラ、ゴア、カルナータカ、そしてケーララの各州のヒンドゥー教徒たちが、グディー・パードゥワーの祭りで春を祝います。それは、インドのチャイトラの月の、「満ちて行く月」を意味するシュクラ・パクシュの、パードゥワー、すなわち「1日目」に当たります。グディーとは「勝利の旗」を意味します。グディー・パードゥワーはまた、チャイトラ・ナヴァラトウリー、すなわち9日間の女神ドゥルガーのお祝いの始まりでもあります。

『ブラフマー・プラーナ』によると、古代に、大きなプララヤ、「大洪水」が宇宙を壊滅させ、時が止まってしまいました。この期間に、女神ドゥルガーはブラフマー神に宇宙を再び創造するよう請いました。これがブラフマー神をグディー・パードゥワーに崇拝する理由であり、グディーはまた、ブラフマー・ドゥヴァジュ、すなわち「ブラフマーの旗」としても知られています。グディー・パードゥワーはさらに、ラーマ神がシュリー・ランカーの悪魔ラーヴァナに勝利し、アヨーダヤの自分の王国に帰還した日でもあります。従って他の多くの祭りと同じく、グディー・パードゥワーは悪に対する善の勝利を祝い、ヴィヴェーカ、すなわち「識別力」を使って善と悪を見極めることを私たちに優しく思い出させる日です。

私はインドのデリーで育ちました。私の家族はグディー・パードゥワーのお祝いをしませんが、グディー・パードゥワー、ウガーディ、ユガディ、バイサーキー、ナヴレーなどとしてこの日を祝う、インドのさまざまな州出身の友人や隣人たちに囲まれていました。それぞれの祝い方は場所により少し違っていました。そこには共通のテーマ——春、再生、興奮、期待、そして喜びがあふれんばかりの祝祭——がありました。

グディー・パドゥワーはまた、待ちに待ったマンゴーも含めた穀物や果物の収穫、そして新たに種をまく時でもあります——それ故、新しい始まりの時なのです。この新しい始まりに注目することは、私が 1989 年にシッダ・ヨーガの道を歩み始めた時に、特別な意味を持ちました。今、私はグルと私のサーダナーへの献身を新たにするためにこの日を祝い、私が受け取ったすべてに対する感謝を表し、新しい年への祝福を願って、静かに祈りをささげます。自然が自らを展開させ、自然が栄光に満ちて顕現している至高なる意識であることを私たちに思い出させるこの時、私はいつもこの情熱と興奮の高まりを感じます。

グディー・パドゥワーへ向けての日々は、家を掃除し、飾り付けるのが伝統です。私が子どもの頃、母なる自然が自ら新緑や色とりどりの花で作るランゴリーを映し出しているかのような、鮮やかなランゴリーで家を飾る隣人たちを見ていました。まるで地球がもはや喜びを抑えることができず、歓喜にはじけたかのようなのです。シッダ・ヨーギとして、私は今、それは単に外側の掃除ではなく、私たち自身の心を掃き清めて、大いなる自己の光が私たち自身の内で輝き出すようにさせる時でもあるという理解を持っています。

グディー・パドゥワーの日の朝、隣人の家々はさまざまな活動でにぎやかです。家族は夜明け前から起きて、油浴(アーユルヴェーダの伝統)をし、新しい衣服をまといます。家によっては、日の出の時間に家中の者が目を閉じたままプージャーの部屋に入ります。祭壇の前で目を開け、そのため新年の最初に目にするものは神のダルシャンになりました。儀式と祈りは、近隣の人々私の家族も含めて全員が、苦いニーム(インドセンダン)の葉と甘いジャガリー(ヤシ糖)でできたプラサードを受け取るまで終わりませんでした。カルナータカ州出身の何人かの友人の家では、辛み、酸味、塩味、渋味を持つ食材が、その苦味と甘味に加えられました。この組み合わせは、人生のさまざまな味わいを私たちに思い出させるためです。この対比は私たちに、常に内側の変わることのない大いなる自己に向かうこと、そして瞑想と熟考によって落ち着きのないマインドを静めることを促すのです。

マハーラーシュトラ州では、この祝祭で最も吉兆な部分は、グディー・パードゥワーの前夜にグディーを準備して掲げることです。この旗は家の外やベランダに設置されます。赤と緑と黄色の旗の上部の逆さのつぼは、神聖なエネルギーを吸収し、それを家の中に導くものと信じられています。また、グディーは悪を追い払い、幸運と豊かさをもたらすとも信じられています。これは勝利のお祝いであることから、私たちを自分の内なる敵と感覚に打ち勝つことに駆り立てるのです。それは私たちに最高のものを希求することを教えています。シッダ・ヨーガの道では、それは私たち自身の内なる自己の知識であると考えます。

そしてもちろん、どのようなお祝いもごちそう無しには終わりません。素晴らしい料理が初めに神にささげられ、それからプラサードとして食べられます。人々は集い、鳴り物入りでにぎやかに行列を作り、寺院を訪れます。「Gudipadvyachya hardik shubeccha!」——「グディー・パードゥワーに心からの願いを！」と、マハーラーシュトラ州の人々が互いに願う時、そこには大きな喜びの気持ちがあります。

